

第3章 住民の意識

3-1 調査の概要

本計画の策定にあたり、本町の現状や課題に対する住民の皆様からの率直なご意見等をお聞かせいただき、第5次上ノ国町総合計画の総括や今後の施策検討に活用するために、基礎調査として住民アンケートを実施しました。

その結果の主要な設問結果については、「3-2 調査結果の概要」のとおりです。

◀調査の概要▶

調査名称	第6次上ノ国町総合計画策定のための上ノ国町まちづくりアンケート調査
調査地域	上ノ国町全域
調査対象	町内在住の18歳以上の男女
調査方法	郵送配付・回収
有効対象者数	1,500名
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	平成31年1月
有効回収数	534票
有効回収率	35.6%

※「3-2 調査結果の概要」のグラフでは、比率を百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため合計が100%を上下する場合があります。

※【複数回答】とある問は回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。

※第5次上ノ国町総合計画策定時の調査(平成20年8月実施)と同じ設問については、「前回調査」として結果を併記しています。

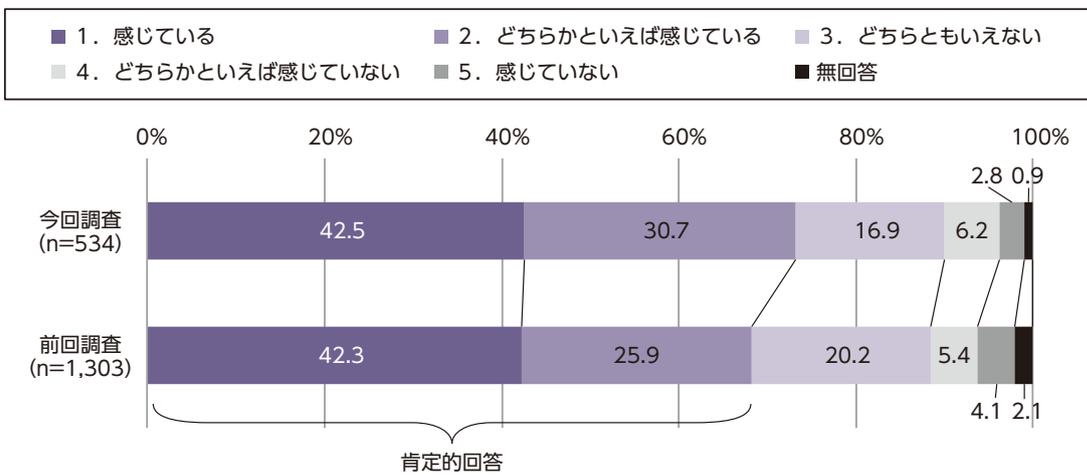


3-2 調査結果の概要

① まちへの愛着度

愛着を「感じている」と回答した人が42.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば感じている」が30.7%で続き、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が73.2%となっています。前回調査よりもまちへの愛着度は高い傾向にあることがうかがえます。

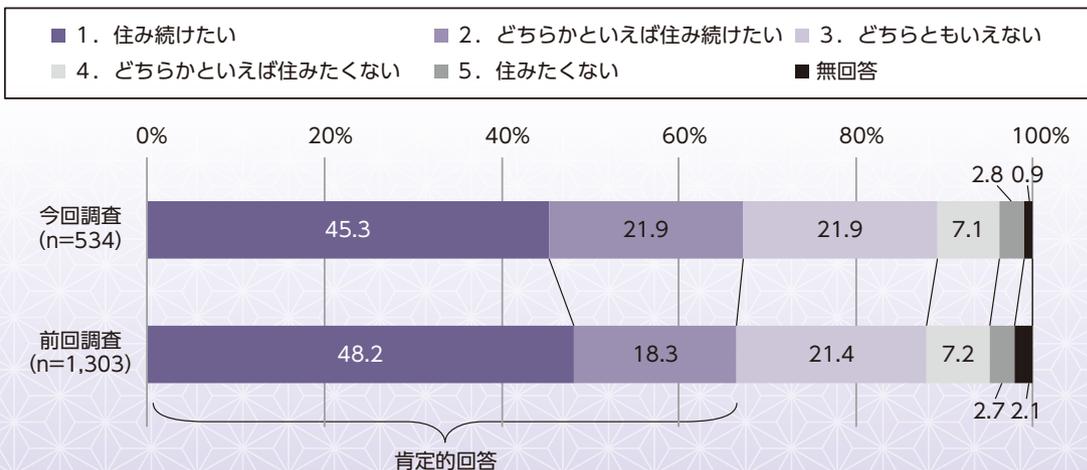
《まちへの愛着度》



② 今後の定住意向

今後も本町に「住み続けたい」と回答した人が45.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が21.9%で続き、これらをあわせた“住み続けたい”という人が67.2%となっています。前回調査よりも定住意向は微増傾向にあることがうかがえます。

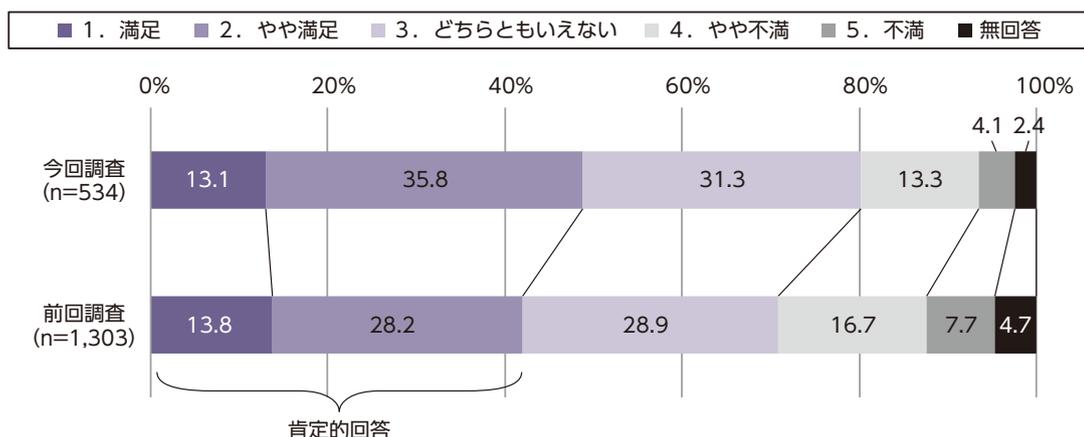
《今後の定住意向》



③ まちの暮らしやすさ（全体の満足度）

まちの暮らしやすさに「やや満足」と回答した人が35.8%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が31.3%で続いています。「満足」と「やや満足」をあわせた“まちが暮らしやすい”という人が48.9%となっています。前回調査よりもまちの暮らしやすさの満足度は高い傾向にあることがうかがえます。

《まちの暮らしやすさ》



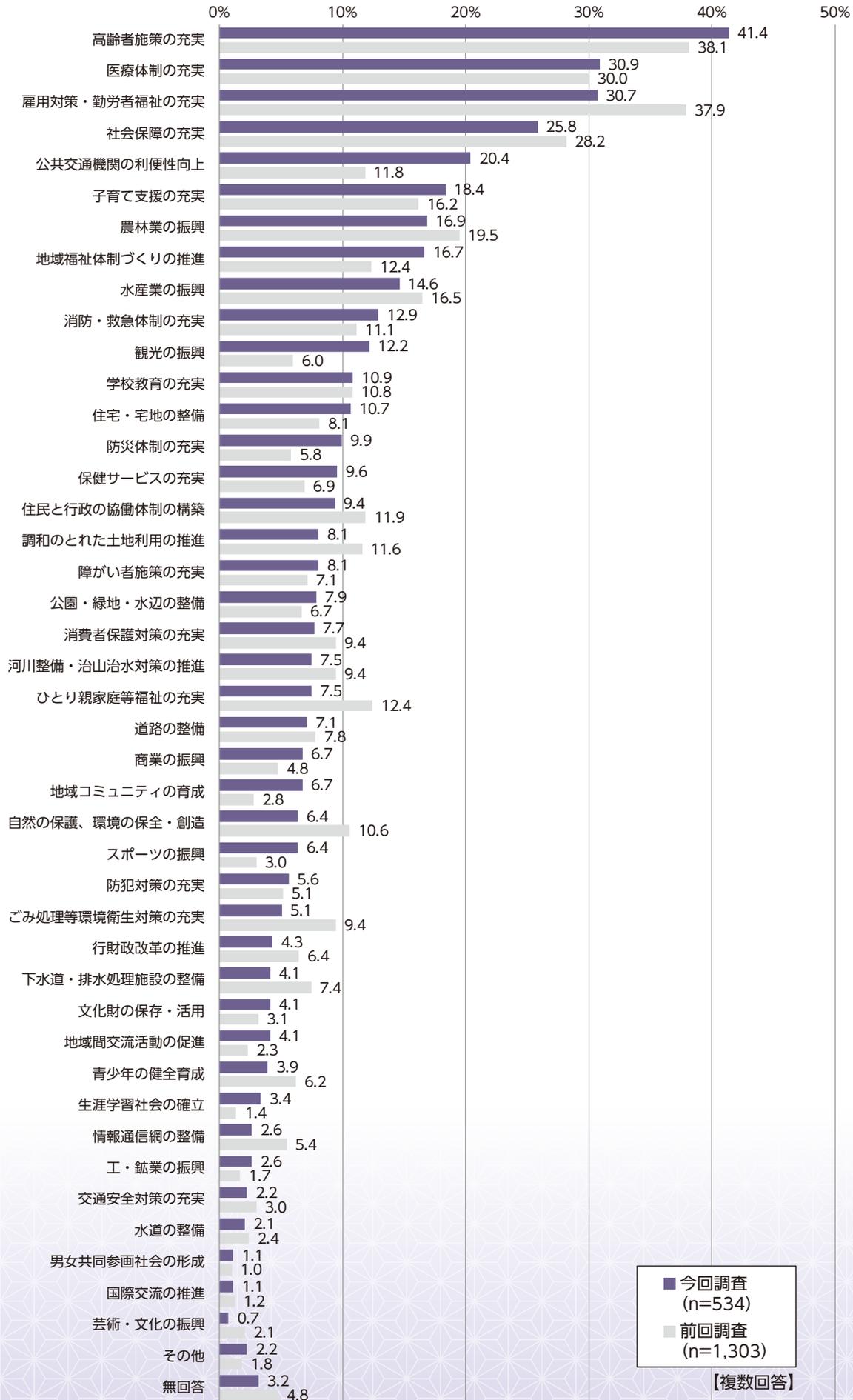
④ 町の行政のなかで、今後、特に力を入れてほしいと思うことについて

町の行政のなかで、今後、特に力を入れてほしいと思うことについてたずねたところ、「高齢者施策の充実」(41.4%)が最も多くなっています。次いで「医療体制の充実」(30.9%)、「雇用対策・勤労者福祉の充実」(30.7%)と続きます。

前回調査と今回調査で回答割合を比較すると、「公共交通の利便性向上」が最も増加(+8.6ポイント)、次いで「観光の振興」(+6.2ポイント)、「地域福祉体制づくりの推進」(+4.3ポイント)が増加しています。

《特に力を入れてほしい項目》

特に力を入れてほしい項目 (上位5項目)	今回調査 割合 (%)	前回調査 割合 (%)	経年増減 ポイント	
高齢者施策の充実	41.4	38.1	3.3	↑
医療体制の充実	30.9	30.0	0.9	↑
雇用対策・勤労者福祉の充実	30.7	37.9	-7.2	↓
社会保障の充実	25.8	28.2	-2.4	↓
公共交通の利便性向上	20.4	11.8	8.6	↑



I 総論

第3章

住民の意識

【複数回答】

⑤ 今後のまちづくりの特色について

今後のまちづくりの特色をたずねたところ、「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」(49.6%)が他を大きく引き離して、前回調査と同様に第1位となっています。次いで「子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のまち」(21.3%)が続き、以下、「農林水産業を中心として発展する農林水産業のまち」(20.0%)、「快適で安全・安心な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち」(18.4%)となっています。

前回調査と今回調査で回答割合を比較すると、「子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のまち」が最も増加(+7.1ポイント)、次いで「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」(+3.8ポイント)、「地域資源を活用し、観光・レクリエーションや交流事業を進める観光・交流のまち」(+3.5ポイント)が増加しています。

《今後のまちづくりの特色について》

